

一般社団法人 まちのね浜甲子園とは？

UR団地の建て替えにより新たな分譲エリアが誕生し、住民や管理組合を会員とするエリアマネジメント組織が設立されました。住民同士のつながりづくりや、地域課題の解決、エリアの価値向上を目指して様々な取り組みを行っています。



3つの取り組みテーマ

一般社団法人まちのね浜甲子園は、「つながりとやさしさのある街」を目指し、子育て・健康・防災の3つのテーマで地域の課題解決と暮らしやすさを育んでいます。

子育て

親子が気軽に立ち寄れ、困ったときには助け合える街を目指して、交流イベントや学びの場、安心して過ごせる居場所づくりを行っています。

健康

シニアから子育て世代まですべての世代が健康に過ごせるよう、運動・食・交流などを通じて、体と心の健康づくりを支えています。

防災減災

日頃の備えと助け合いの関係づくりを進め、災害時にも支え合える地域を目指しています。

中学生以上の夜の居場所 まちのね帰宅部

西宮市の中学校の部活動地域移行の取り組み「プレミヤ」への登録や、フェア出店を通じた周知に注力した今年度、新たな試みとして、HAMACO:LIVINGを不定期で夜間開館する「まちのね帰宅部」を開始しました。この積極的な発信により徐々に認知度が上がり、昨年はほぼ利用のなかった中学生以上の世代の参加が大幅に増加。年間で延べ191人が利用する場へと成長しました。放課後や塾の合間に若者たちがふらっと立ち寄り、地域の大人に見守られながら自主学習やおしゃべりを楽しむ、大切な「第3の居場所」となっています。次年度も、子どもたちがホッと安心できる環境を届けてまいります。



まちのね帰宅部で 待っています！

しほっちです。
小学生の頃にここに来ていた大学生と、まちのねスタッフさんとの何気ない会話をきっかけに生まれた帰宅部。この地域のユース世代の力になりたいという思いから関わり始め、1年が過ぎました。ユース世代と過ごすこの「場」を、私自身も楽しみながら活動しています。



私たちの5つの取り組み

私たちは環境に優しいとくみに力を入れてます。身近な活動から、環境にも人にも心地よいまちをみんなで育てていきましょう！



ペットボトルキャップ回収

- 1 集まった約6キロのキャップが3人分のワクチンに。世界の子どもを救う活動に役立てられました！

大成果!!



よかったらつつって

- 2 ベビーカーや自転車など、不要になった子ども用品を無料でシェア。「捨てるより使ってほしい」思いを繋ぎます。

大注目!!



まちのね文庫

- 3 絵本から単行本まで、寄付でいただいた約900冊の本を貸出中。



まちピカ大作戦

- 4 月2回、多世代約30名で清掃中。



まちのねクローゼット

- 5 子ども服のリサイクル



地域の中学生が職場体験！

トライやる受入報告

今年度、新たな取り組みとして「トライやる・ウィーク」で甲子園浜中学校と真砂中学校から計4名の生徒を受け入れました。

期間中、生徒たちはシニアイベントや子育ておしゃべり会の補助、OSAMPO BASEでの接客など様々な業務を体験。一生懸命な姿に私共も刺激を受け、学びの多い充実した2週間となりました。



trial week

trial week



西宮いきいき体操

まちのねジム



2024年11月にスタートした「西宮いきいき体操(通称:まちのねジム)」も2年目となり、まちのね浜甲子園の事業として定着しました。体操終了後の「お茶会」と「頭の体操」は、コグニサイズ効果に繋がればと願っています。多くの参加者は、指導のDVD通りに体を動かせるようになり日常生活向上のお手伝いの一環となりました。今年度は延べ431名が参加、登録者は27名です。



user's voice

まちジム参加の方にうかがいました！

運動の負荷を重りて調整できるのが良い
初めは物足りなく感じたが重りを増やすことで
負荷感を増やしている

今までハイキングの翌日は
太ももの筋肉痛があったが
今年は筋肉痛にならない
まちジムの効果だと実感している

まちジムを通して
まちのねの存在が大きくなり
他のイベントへの参加も
できるようになった

もう少し「若い高齢者」
がいたらうれしいです

ハンドメイド

ちくちくの会

「気軽にふらっと来られるのがいい」「自分でもできた!と思えるのが嬉しい」
参加者のみなさんから、そんな声が聞かれたちくちくの会。型紙や材料が準備されているため、手芸が初めてでも安心して参加でき、2時間で作品が完成する達成感も魅力です。生地選びには毎回新しい発見があり、自分で作ったものには自然と愛着がわきます。また、ものづくりだけでなく、世代を超えた交流やおしゃべりも楽しみのひとつ。「実りのある2時間」として、人とのつながりや地域のつながりが広がる、あたたかな居場所になっています。

「よろかパーク」を通じた場づくりへの協力

UR都市機構が主導する、団地共用部を地域に開かれた憩いの空間へと再生する社会実験「よろかパーク」の取り組みに協力いたしました。このプロジェクトは、子どもから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄り、ゆるやかに話せる「地域の居場所」を目指す試みです。

これまでのコミュニティ運営のノウハウを活かし、広場でのイベント開催などを通じた多世代の縁づくりに協力しました。さらに、日常の活動拠点であるコミュニティカフェ「OSAMPO BASE」とも連動しながら、住民の皆様が日常の中でふらっと立ち寄れる温かな空間を

作りました。単なる通り抜きのスペースから、偶然の出会いや日々の立ち話が生まれる空間へと進化させるこの挑戦は、エリア全体の安心感にも繋がります。今後もこうした共有スペースの活性化を通じて、顔の見える豊かな街づくりを目指していきます。



HAMACO:LIVINGにあるちいさな物語BOXをご存知ですか？

ハンドメイド作品の委託BOXを設置して約8年。初めて販売にチャレンジする方を応援したい、作家さま同士のつながりを大切にしたい、そんな思いを込めて続けてきました。開館日はいつでも作品をご覧いただけるため、地域の皆さまにも気軽にハンドメイド作品を楽しんでいただいています。季節ごとに並ぶ作品も変わり、訪れるたびに新しい出会いがあるのも魅力のひとつです。来年度は地域のマルシェなどに店出し、これからもあたたかな交流が生まれる場を大切にしていきたいです。

管理組合がチャレンジした防災そなえるDAY

2026年3月14日、近隣3組織(ルネ・ローレル・枝川B地区) 合同の防災イベントを開催し、当日は計83名の住民の皆様にご参加いただきました。鳴尾消防署の協力によるはしご車訓練や煙体験、マンション最上階への避難体験のほか、かまどベンチを使った炊き出しなど、実践的な訓練を行いました。居住形態を越えて住民同士が顔の見える関係を築く貴重な機会となり、今後も地域の連携と防災力の向上に努めてまいります。

